

とつとり Now

Spring 2021

卷頭
特集

城が語るものがたり

～鳥取城と米子城の魅力～

特集

活気生み出した 『鬼嫁、コミュニティー』

歴史ある「三八市」守り継ぐ



とっとり Now

Spring 2021

あーとの森

版画 ミシマ サオリ

2

巻頭
特集

城が語るものがたり ～鳥取城と米子城の魅力～

4



巻頭特集: 上空から見た鳥取城跡

TOTTORI
おもしろ発見手帖

鳥取県畜産試験場

16

ここにこの人
Human Life

医師 湯川 喜美

17

花咲くYokai談
水木しげると身近な妖怪たち

小豆洗い

20

鳥取のうま味

三拍子そろった養殖ヒラメ

21

特 集

活気生み出した『鬼嫁、コミュニティー』 歴史ある「三八市」守り継ぐ

22

きらり匠人
継承の技が語る世界

旋盤工 紺本 忍夫

28

VIVA! とっとりLIFE
輝くIJUターン者たち

地域おこし協力隊 (智頭町)

30

企業紹介

株式会社エフ鳥取

32

文字の迷宮をゆく ~つれづれ書林女子~ 『独居老人スタイル』
Voice

33

読者プレゼント・編集後記

34



●表紙イラスト
池平 徹兵
いけひら・てっぺい

1978年福岡県生まれ。島根大学卒。東京オペラシティアートギャラリーprojectN、岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出展。全てのモチーフを本当に描きたい気持ちで描くことを追求している。表紙の舞台は「とっとり花回廊」。ドーム型の温室が巨大な宇宙船に見え、どこか遠い星のように思えた。ウグイスと花にUFOを添えて、春の日常と未知の景色が交差する感覚を表現した。

『Botanical rain』(リトグラフ、67×50cm、2019年)



全身を覆うさまざまな模様は、若者に流行りのタトゥーかと思ったが、よく見ると画面はもっと内面的なものだった。雨が降り、波紋が広がり、植物が生えて、赤血球も流れ連なっている。この多彩なシルエットは、一体なにを意味するのだろう。

幼い頃、病弱だったミシマサオリさんは、生死に敏感な不安感からか、人体に興味をもち、大学在学中から女性の体をモチーフに制作を行う。紙と版が出会う版画に魅せられ、銅版画やリトグラフなど、多様な技法を修得した。

命をいとおしむ感覚は、ジャンクなもの(不用品やガラクタ)への嗜好を強め、手元には雑誌の切り抜きやポスターの写真など、膨大な量のスクラップがある。これは彼女にとって一種のメモであり、生来の不安な気持ちと相まって、想像と創造が増殖されたのではなかろうか。

掲載の女性と脚の版画は、水と細胞や植物などに彩られる。考えてみれば、人間はそれらの複雑な集積であり、命は人体に宿る森羅万象の現象なのである。「自然と離れると、自分が枯れる」と語るミシマさん。作品はゆえに、瑞々しい生命感をたたえている。

文／角秋勝治

写真／山内一峰



人体に宿る森羅万象

版画 ミシマ サオリ



ミシマ・サオリ

1979年生まれ。多摩美術大学卒。2008年のヨセフ・イーザー国際現代版画ビエンナーレをはじめ、ブルガリア国際蔵書票展、レッセドラ国際版画展、カダケス国際版画展、日本版画協会に入選。東秩父版画フォーラム奨励賞。医学書、詩集、小説の装丁も手掛けた。個展多数。

『Restart』
(エッチング、アクアチント、60×45cm、2020年)

城が語るもの

～鳥取城と米子城の魅力～



鳥取県には、名城があるのをご存知だろうか。

その代表が、豊臣秀吉に攻められ落城しながらも、

江戸時代を通じて威容を誇った鳥取城と、

「山陰随一の名城」と称される、

『海に浮かぶ天空の城、米子城だ。

2つの城に息づく物語を、美しい景観と共にたどってみよう。

文／萩原 さちこ 写真／萱野 雄一



戦国、江戸と2つの時代の姿が共存する鳥取城



鳥取城

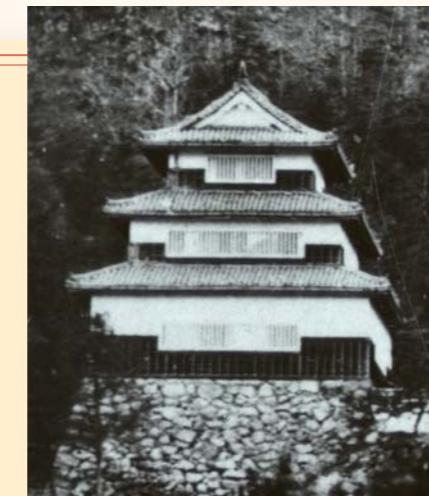
2つの時代の姿が共存

かの織田信長に、堅牢な名城と言わしめた城がある。鳥取県庁の北側、久松公園（鳥取市）の一帯にあった鳥取城だ。

鳥取城は、豊臣（羽柴）秀吉の三 大城攻めのひとつ「渴え殺し」の舞 台で知られる。1581年、信長の 命令を受けた秀吉は、3万余の大軍 を率い、吉川経家と城兵ほか約 3400人が籠る鳥取城を包囲。鳥 取城への援軍や兵糧の搬入を絶ち、 飢餓状態に追い込む兵糧攻めで開城させた。城内が餓死者の山と化す、

戦国史上もっとも悲惨な籠城戦といわれている。

実は、経家が籠城した戦国時代の 鳥取城の中心があつたのは、久松公 園内にそびえる標高263メートルの久松 山の山頂。今も山麓一帯に残る石垣 や水堀は、江戸時代の鳥取城の片鱗 だ。「鳥取城の魅力は、戦国時代と 江戸時代、2つの時代の姿が共存す ること。全国的に珍しいのですよ」と、鳥取市文化財課の細田隆博さん が教えてくれた。



「武家諸法度」公布後に整備された三階櫓

写真提供：鳥取市

鳥取城の「三階櫓」も、天守代用の櫓だった。
1621年頃に建てられ、1692年に山頂の天守が焼失してからは、実質的な天守として鳥取藩の権威を象徴する建物となった。1720年に大火で焼失するも、1735年に再建。明治時代に撤去されるまで鳥取城の中心的存在として見上げられていた。

※1 天守＝城の象徴となる最大規模で豪華な建物。
「天守閣」は俗称
※2 櫓＝射撃場や武器、兵糧の保管庫などが発祥の建物。
二階建ての二重櫓、三階建ての三重櫓などがある

「鳥取城の魅力を全国にもっと広めたい」と細田さん



信長も唸らせた「堅牢な名城」



戦国時代の鳥取城へは、登山道を 30分ほど登れば着く。待っているのは、抜群の眺望だ。鳥取砂丘や日本 海、晴れていれば大山まで見渡せる。

「陸水運の利便性が高い、領国の拠 点としてふさわしい立地。久松山は 眺めのよさと防御性の高さから、経 家に『日本にかくれなき名山』と評 されたほどです。」

絶景に心ほどける一方で、秀吉の大軍が完全包囲していた様子を想像するすると背筋が凍る。港を封鎖し、街道を遮断して支援ルートを断絶。秀吉はアリの這い出る隙もない包囲網を構築していた。孤立した鳥取城に なす術がなかったのもうなづける。 東に見えるのが、秀吉が本陣・太閤ヶ平を置いた本陣山だ。直線距離にしてわずか1.3キロほどと、あまりの至近距離に驚く。太閱ヶ平で煮炊する匂いは飢餓にあえぐ鳥取城へと届いただろう。かつての城は木々に覆われておらず、双方の様子は丸見えだったはず。壯絶な状況が目に浮かぶ。

秀吉が「太閱ヶ平」を置いた本陣山



鳥取城 関連年表

戦国時代

室町時代	
16世紀中頃	この頃、久松山に但馬山名氏によって砦が築かれる。
安土桃山時代	
1580(天正8)年	羽柴秀吉の第1回鳥取城攻め。山名豊国、降伏するが、毛利方が鳥取城を再奪還する。
1581(天正9)年	羽柴秀吉の第2回鳥取城攻め。兵糧攻めの末、吉川経家の切腹で毛利方降伏する。新たに入城した宮部継潤が鳥取城を近世城郭に改修する。
1600(慶長5)年	関ヶ原の戦いに伴い西軍に味方した鳥取城が攻撃される。池田長吉が城主となる。

江戸時代

1617(元和3)年	池田光政が城主となり、鳥取城が鳥取藩32万石の居城となる。
1632(寛永9)年	池田光仲が城主となる(鳥取池田家の成立)。やがて鳥取城下に水道施設が整備される。
1692(元禄5)年	天守が落雷により焼失し、以後再建されず。
1720(享保5)年	城下の大火(石黒大火)により鳥取城も延焼する。
1721(享保6)年	三ノ丸を中心に再建が開始され、3年後に完成する。
1807(文化4)年	この頃、天球丸の巻石垣が築かれる。
1825(文政8)年	幕府より屋根瓦に葵の紋を用いることを許される。
1863(文久3)年	扇御殿、宝隆院庭園(現存)が造営される。

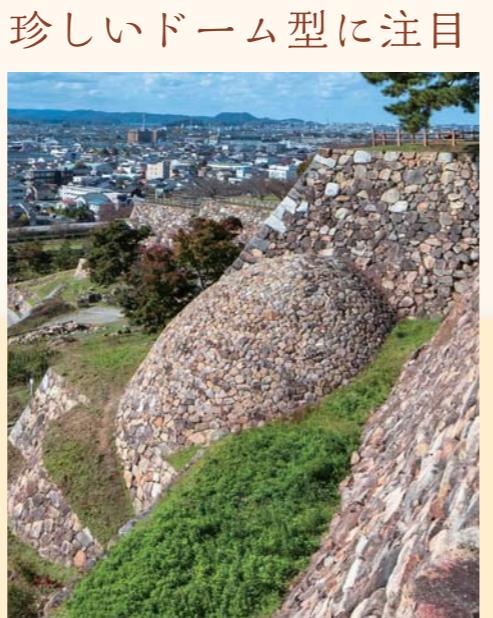
近現代

1873(明治6)年	廃城令で軍事上の必要性が認められ、城は陸軍省が再利用する。
1875(明治8)年	陸軍省によって不要な71棟の建物が解体撤去される。
1879(明治12)年	陸軍省が撤退し、ほぼ全ての建物が解体撤去される。
1923(大正12)年	久松公園開設。
1943(昭和18)年	鳥取大震災で被災する。翌年、城跡が旧藩主鳥取池田家から鳥取市へ寄贈される。
1957(昭和32)年	国史跡に指定される。

鳥取城でしか見られない「巻石垣」が、2012年に復元されている。全国的にも珍しい、ドーム型の不思議な石垣だ。石垣の崩落防止のために築かれ、鳥取藩が江戸幕府に提出した修理絵図『修復願絵図』や『御小姓長屋之図』などから、1807~1839年頃の築造と考えられている。河川の護岸や堤防、港の突堤を築く際に用いられた技術を応用したようだ。

ちなみに「巻石垣」が復元された天球丸という区画の名称は、池田家初代城主・池田長吉の姉、天球院の居所があったという伝承が由来だ。山麓の鳥取城は、三ノ丸、二ノ丸、天球丸の三段構造だった。最高所にあったのが、天球丸だ。

天球丸の「巻石垣」



ドーム型の巻石垣は、全国唯一の形状だという

中心に位置する二ノ丸が、藩主の居館や家老が政治を行う御殿があった中枢部。西隅には、三階櫓、南側には走櫓と菱櫓、東側は正門の鉄御門(※3)があった。

※3鉄御門=弓矢や鉄砲などの攻撃から守るため、扉に鉄板が張られた門

1600年に出雲に入った堀尾忠氏が月山富田城(島根県安来市)を廃して新たに松江城(島根県松江市)を築いたように、関ヶ原の戦い後は、新たな場所に城を新築するケースが多い。ところが池田氏は城地を移転せず、戦国時代の鳥取城の機能を維持しながら、その景観もいかして、山麓に新時代の鳥取城を築いていったようだ。そして光政が、鳥取藩32万石の城として恥じないよう、鳥取城を拡張し、立派な建物を建てて城下町を整備した。「戦国時代から江戸時代の城へ。鳥取城には各時代の姿が残り、日本の築城史を追えることから、城郭の博物館」と呼ばれています。(細田さん)。

田家が成立。以後、鳥取城は鳥取池田家の城として明治維新まで機能した。1615年に大坂夏の陣で豊臣家が滅亡すると、1617年に池田光政が城主となり、鳥取藩は32万石の大藩となつた。その後、1632年に池田光仲が城主となると、鳥取池

宮部や長吉は鳥取城を大改修し、山上から山麓へと城の中心を移し、石垣や櫓を築造した。こうして、新たに鳥取城が誕生した。

特に関ヶ原の戦い後、家康は西国の大名を牽制すべく、徳川方の大名を配置しています。長吉が鳥取城を任せられたのも、西国の境にあるためでしょう。池田家への、家康の信頼がうかがえます。(細田さん)。

1615年に大坂夏の陣で豊臣家が滅亡すると、1617年に池田光政が城主となり、鳥取藩は32万石の大藩となつた。その後、1632年に池田光仲が城主となると、鳥取池田家が鳥取城を任されたのも、西国の境にあるためでしょう。池田家への、家康の信頼がうかがえます。(細田さん)。

【鳥取城(山下ノ丸)見取り図】

引用: 鳥取市観光パンフレット「鳥取旅時間」
※「山下ノ丸」は久松山の山麓、「山上ノ丸」は山頂にある



「戦国時代、攻め落とされた城は必要がなければ廃されました。立地に恵まれた鳥取城は、籠城戦の後も存続し、時代が変わっても領国の中心地であり続けたのがすごいところです」と細田さん。籠城戦の終息後は秀吉の家臣・宮部継潤が城主となり、石垣を用いた城への改修がはじまり、1600年の関ヶ原の戦い後は、徳川家康の家臣・池田長吉が城主となつた。

宮部や長吉は鳥取城を大改修し、山上から山麓へと城の中心を移し、石垣や櫓を築造した。こうして、新たに鳥取城が誕生した。

特に関ヶ原の戦い後、家康は西国の大名を牽制すべく、徳川方の大名を配置しています。長吉が鳥取城を任せられたのも、西国の境にあるためでしょう。池田家への、家康の信頼がうかがえます。(細田さん)。

1615年に大坂夏の陣で豊臣家が滅亡すると、1617年に池田光政が城主となり、鳥取藩は32万石の大藩となつた。その後、1632年に池田光仲が城主となると、鳥取池

秀吉の朝鮮出兵が影響か 軍港を備えた海に浮かぶ城



米子城

春になるとサクラが咲き、大パノラマと競演する

戦国時代の城は、敵が近づきにくいうよう海から少し離れた場所に築かれるのが一般的。米子城が海沿いにあるのには、もちろん特別な理由がある。

大海に浮かぶ、大船に乗っている気分だ。標高約90mの湊山に築かれた米子城の本丸からは、360度の大パノラマが広がり、船上で佇んでいるような開放的な気分になる。西には中海が広がり、境港や島根半島まで遠望がきく。東には城下町が眼下に見下ろせ、遠くには秀峰・大山も望める。海と空と山と町、すべてを手に入れたような格別の空間だ。

海の上にいるような錯覚に陥るのは、米子城が中海に臨む「海城」だからだ。現在は西・南面だけだが、かつては湊山の北面も中海に面し、城の半分が中海に突き出していた。現在の湊山公園と鳥取大学附属病院の西側一帯は、海だったのだ。内堀と外堀には、中海から海水が引き込まれていた。

大海に浮かぶ、大船に乗っている気分だ。標高約90mの湊山に築かれた米子城の本丸からは、360度の大パノラマが広がり、船上で佇んでいるような開放的な気分になる。西には中海が広がり、境港や島根半島まで遠望がきく。東には城下町が眼下に見下ろせ、遠くには秀峰・大山も望める。海と空と山と町、すべてを手に入れたような格別の空間だ。

城は築かれる場所により「山城」や「平山城」などに分類される。南北朝時代～戦国時代の城（中世の城）の主流は、山全体を城域とした山城。一方、戦国時代末期～江戸時代の城（近世の城）では山城よりも低い小高い山や丘を利用した平山城が主流となる。鳥取城も、戦国時代には久松山の山頂に築かれた山城だったが、江戸時代になると城地が山麓に移され平山城となった。

中世と近世の城の大まかな見分け方は、土づくりか、石垣づくりかによる。姫路城（兵庫県姫路市）や松江城などの近世の城は、壮大な石垣で城全体が囲まれている。一方、戦国時代の城は城壁が石垣ではなく土だ。

戦国時代の土づくりの城は、土木工事で山を要塞化していく。山の斜面を削って「曲輪（郭）」と呼ばれる平坦な区画をつくり、曲輪の端には「土壘」という土壁を設けて、「堀」を掘って曲輪を独立させる。尾根伝いに敵が侵入できないように「堀切」で尾根を断ち切

り、敵が簡単に駆け上がる緩斜面は、削り込んで崖のような急斜面にするなり、斜面と並行に「堅堀」を掘り込んだりする。通路や出入口は、折り曲げることで射撃面を増やし、効率的にくまなく敵を攻撃できるようにしておく。

このように、地勢の弱点を、人工的な土木工事で補っていくのだ。山に刻まれた先人の知恵と工夫を見つけ、戦略を読み解くのが楽しい。

秀吉が鳥取城を攻略するために築いた「太閤ヶ平」は、見応えのある土の城として全国的にも知られる名城だ。臨時の城だが、そうとは思えない完成度の高さを誇る。遺構の残存状態もよく、「史跡鳥取城跡附太閤ヶ平」として国史跡に指定されている。

その堅牢な構造から、単なる秀吉の本陣ではなく、信長の出陣を前提に築かれた可能性も指摘されている。戦況によっては、毛利・織田両氏の一騎討ちがあり、二大勢力の決着がこの場所でついた可能性も…。歴史のロマンも眠る、すばらしい遺跡だ。

歴史ロマンが眠る太閤ヶ平

大藩の威容を示すのが、2018年に復元された擬宝珠橋だ。1621年に光政が城の正面玄関にかけた橋で、復元された城の橋としては国内最長。長さは約37mにも及ぶ。

寺院建築で設けられる宝珠形の装飾、擬宝珠を採用したところに、池田家の品格が感じられる。実際に用

いられた擬宝珠がひとつだけ残つており、その擬宝珠で鋳型を起こして精巧に復元したそうだ。伝統的な「煮黒目仕上げ」で仕上げられ、重厚な輝きを放っている。



再現された擬宝珠（写真上）と擬宝珠橋



2021年3月には、城の正門に江戸時代、鳥取藩主は中ノ御門から江戸に向けて参勤交代に出発した。「中ノ御門の北側にある区画は、出発前に待機した場所。古い資料に『門出の場』と記されています。素敵な名称でしょう」と細田さん。今後、この場所は名称にちなみ、市民が憩い集う場に整備するという。令和の現代も、鳥取城は地域の中心としてあり続けるようだ。

江戸時代、鳥取藩主は中ノ御門（おおて門）が竣工。全長約10m、全高約5mの立派な城門が、146年ぶりに蘇る。



積み方いろいろ
こんなに違う!
~米子城は石垣の宝庫~

4つの時代の石垣が見られる天守台と四重櫓台=写真提供: 米子市

石垣をよく見ると、積み方や加工、石材の種類に違いがある。表情の違いを見比べるだけでも楽しい。石垣を積む技術や加工の精度は少しづつ発展していくから、完成度をみれば積まれた時期や改修の有無がわかる。

時代ごとに改変された米子城は、さまざまな積み方が見られる石垣の宝庫である。

天守台と四重櫓台は、絶好の石垣鑑賞スポット。なんと、4つの時代の石垣がいっぺんに見られる。天守台はもとより古い、吉川広家時代（1591～1600年頃）に積まれたもの。不揃いの石材が積み上げられ、荒々しく風情がある。天守台の手前に積まれた控えの石垣は、上段が平成時代、下段が昭和時代の積み直しだ。四重櫓台は、幕末の補修。天守台と比べると、表面が平らに加工され、すっきりとした印象だ。

隅角部の積み方「算木積み」の完成度も、積まれた時期により異なる。算木積みは、直方体に加工した石材を、長辺と短辺が交互になるように組み合わせて積む技法だ。天守台の算木積みは、石材の大きさが不揃いで、石材の間にできる隙間を小石で埋めながら、てっぺんが水平になるよう調整している。一方の四重櫓台は、均一に成形された石材が隙間なく積まれている。



表中御門の枒形内に
残る矢穴の開いた石

さらに、必見のおもしろ石垣もある。表中御門の枒形内に残る、矢穴の開いた石だ。

「矢穴」とは、石を割るときに掘る、長方形の穴のこと。石を切り出したり分割するときは、割りたい石や岩盤の表面上に、矢穴をキリトリ線のように等間隔に彫り込み、その穴にくさびを打ち込んで、げんのう（ハンマー）で叩き割る。石の筋（石目）に沿っていないと石は割れないため、矢穴が掘られたまま割れ残った石や、矢穴の掘り込みを途中でやめた石もよく残っている。

表中御門の枒形内の石材に残る石は、矢穴を指示した線、彫り込みかけた跡など、石を割る一連の行程が残る珍しいもの。職人の試行錯誤が感じられ、築城の苦労が伝わってくる。

1598年、朝鮮出兵は秀吉の死によってようやく終結した。豊臣政権は大きく揺れ、2年後の関ヶ原の戦いでは、かなりの緊張状態にあったはずだ。「朝鮮から帰国した広家が米子城の防御力を上げるために、倭城の影響を受けて構築したのかかもしれませんね」（瀬野さん）。

一直線に積まれた登り石垣の全長は、「内膳丸」まで含めると約230メートルにも及ぶ。本丸、「番所郭」から東麓方向に向けた巨大な豊堀とセットで、遮断線を構築していたようだ。中海側から望むその景観は、さぞ圧巻だったに違いない。

それほど築城に心血を注いだ広家だったが、米子城の完成を待たずに1600年に國替えで米子を去つている。米子城は、新たな城主となつた中村一忠が1602年頃に完成させたようだ。石垣を増設して門前を固め、広家時代には四重だった天守を五重に改修。18万石にふさわしい城へと変貌させ、城下町も整備された。



吉川広家肖像画
=東京大学史料編纂所所蔵

登り石垣とは、山麓方向に向けて、斜面に沿って積まれた石垣のこと。出兵先の朝鮮半島南沿岸部に日本軍が築いた城（倭城）では多く確認されているが、国内での確認は数例しかない。



国内では数例しか確認されていない登り石垣
=写真提供: 米子市



「少しずつ解説されてきた部分が多く、興味が尽きません」と瀬野さん

米子城 関連年表

戦国時代	
<u>室町時代</u>	
1467(応仁1)年 ～応仁の乱	米子飯山に山名宗之が砦を築くと伝えられる。
1566(永禄9)年	富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。
<u>安土桃山時代</u>	
1578(天正6)年	尼子勝久が上月城で自刃、尼子氏滅ぶ。 この頃の米子城番は古曳吉種。
1591(天正19)年	吉川広家(吉川元春の三男)、吉川家の家督を継承。 吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など12万石を認知され、富田城に入り、中海に臨む湊山に米子城の築城を開始。
1592～1598 (文禄1～慶長3)年	文禄・慶長の役(朝鮮出兵)吉川広家が従軍。
1600(慶長5)年	関ヶ原の戦いで吉川広家西軍として出陣。吉川広家、周防国岩国(3万石)に転封、この頃城は7割方完成といわれる。駿河国府中城主、中村一忠(18万石)が伯耆国領主となり尾高城に入る。
1602(慶長7)年	中村一忠、尾高城から完成した米子城に移る。
1603(慶長8)年	中村一忠、家老の横田内膳を暗殺(米子城騒動)。
<u>江戸時代</u>	
1609(慶長14)年	中村一忠、20歳で死亡、中村家は断絶。
1610(慶長15)年	美濃国黒野城主の加藤貞泰が伯耆国領主となり、米子城に入る。
1615(元和1)年	大坂夏の陣で豊臣家滅ぶ。幕府は一国一城令を發布するも、米子城は保存と決まる。
1617(元和3)年	加藤貞泰、伊予国大州に転封。因伯領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預かり(3万2千石)となる。
1618(元和4)年	池田由之が死亡、子の由成が米子城主となる。
1632(寛永9)年	池田光仲が因伯を支配(32万石)、家老・荒尾成利が米子城預かりとなる。
<u>近現代</u>	
1869(明治2)年	朝廷から米子城返上の命令あり。
1872(明治5)年	米子城は士族小倉直人らに払い下げとなる。
1873(明治6)年	城内の建物類が売却され、数年後取り壊される。



萩原さちこ

城郭ライター、編集者。公益財団法人日本城郭協会理事。著書に「地形と立地から読み解く戦国の城」(マイナビ出版)、「続日本100名城めぐりの旅」(学研プラス)など。月刊文藝春秋「一城一食」、朝日新聞デジタル&TRAVEL「城旅へようこそ」など、新聞や雑誌、WEBでの連載、共著、監修多数。
<https://46meg.com/>

米子御城明細図(1739年)=鳥取県立博物館所蔵



4 城代=領主の代わりに城を管理した代理の城主

米子城の魅力は、変遷を物語る改修の痕跡が、城内あちこちに残されていることだ。宝探しのようにそこの片鱗ひづりをたどることで、さまざま時代の姿に出会え、城を通して社会の変化を知ることもできる。

例えば、「表中御門」の巨大な枠形がた（石垣で囲まれた四角いスペース）は、おそらく一忠による増築だ。正門が「表中御門」に変更されたため、出入口の防御を強化すべく増設したと思われる。また近年、本丸西側中腹の「水手御門下郭」では、意図的に破壊された石垣が姿を現した。江戸時代中期の1739年に描かれた『米子御城明細図』には、建物はないものの石垣は描かれていて、この頃ここはこの一帯は城内の一隅とは見

その後、米子城は1615年の一
くいちいじょうれい
回国一城令の公布後も廃城にならず、
じょうだい
城代(※4)が置かれながら存続した。
いすず
もともと出雲・伯耆の国境警備のた
め築かれた米子城は、江戸時代を通
じて国境の押さえとして機能したの
だろう。幕末にも改修されており、
このときには国防の一翼を担つたと



表中御門の枠形。出陣の際に兵の集まる場所

なされていなかつたらしい。「いつ、誰が、なぜ破却したのだろう」などと考えを巡らせながら歩くと、ワクワクが止まらない。

西麓にある深浦も訪れた。今は静かで美しいこの場所に、軍港が置かれて水軍の船が停泊していたとは一米子城の知られざる顔を見たようではクゾクする。深浦に面した「御船手郭」に物資が荷揚げされ、城内へと運ばれたようだ。

城に通じる深浦が軍港として機能した一方で、西側には城下町に通じる商港（現在の米子港）が設けられていたのも興味深い。城は軍事施設であり政庁であると同時に、経済活動の拠点でもある。米子城を中心にして、米子は発展してきたのだ、と気づかせられる。米子城の歴史は、米子の歴史そのもの。現代に脈々と受け継がれる大切なものに、出合えた気がした。

問 米子市文化振興課 ☎ 0859-23-5437



子城大小天守復元 CG=制作・提供：米子市

江戸時代はこう見えた！ かつての姿、再び目前に

米子城は、山頂に本丸、北に内膳丸を置き、
東の飯山（采女丸）も取り込む構造だ。本丸西側
の1段下がったところには水手御門下郭、本丸南
側の中腹には八幡台郭があり、山麓には、二の
丸、三の丸、御船手郭（深浦廊）が配されていた。
現在の市営庭球場が、城主の御殿や武器庫などが
あった二の丸だ。そして、旧湊山球場は、番士の
詰所や米蔵、馬屋などがあった三の丸だった。



国史跡に指定された旧湊山球場

2020年11月、三の丸が史跡追加指定の答申を受けた。現在、整備の一環として旧湊山球場のレフト側スタンド部分が撤去され、壮大な米子城の姿がよく見えるようになった。

球場が建設された際に地面を数メートル埋め立てたため、実際の三の丸の地表面は現在より地下にある。二の丸の石垣や表中御門枱形の石垣も埋まっている、現在見えているより少なくとも3メートルほど高いらしい。城下町側から見上げる米子城は、現在よりさらにダイナミックで壮大だったようだ。

三の丸跡の調査が進めば、どんな建物が建っていたかもわかつてくるだろう。江戸時代の景観が蘇り、かつての姿が解明されるのが待ち遠しい。



最先端医療や救急医療が注目されがちだが、私たちが病気になつたとき最初に頼るのは、やはり「町のお医者さん」だ。三朝町で医院を営む湯川喜美さんも、地域に根付き、住民の健康を支え続ける、そんな医師の一人。大きな心で患者に寄り添う姿に、今こそスポットを当てたい。

鳥取県畜産試験場

所 東伯郡琴浦町松谷 606
0858-55-1362
WB <https://www.pref.tottori.lg.jp/chikushi/>

安心 安全で良質な畜産物を開発

Vol.4

優良牛は生まれた子で判断

鳥取和牛のブランド価値向上に大きく貢献した「白鵬 85 の 3」(※)など雄牛の評価方法は、雌牛と掛け合わせて誕生した子牛の発育状況と、肥育(育て太らせること)後に屠畜(食

肉用の家畜を殺すこと)し、その肉質で判定される。また牛の体に超音波を当てての肉質判断や、遺伝子を解析して牛の能力を予測する技術も研究中だ。

※5年に1回開かれる和牛のオリンピック「第11回全国和牛能力共進会」で肉質部門、全国1位を獲得。

みどり 母

父 かつたひら 勝忠平

子 白鵬 85 の 3

↑ 「白鵬 85 の 3」の母「みどり」は良い成績の子どもをたくさん産んでいる。太りやすい体质らしく、現在ダイエット中。

共進会での評価のポイント

バラの厚さ
あばらの上に沿った肉

皮下脂肪厚
厚みが薄い方が良い

ロース芯面積
すき焼きやステーキで美味しい部位

脂肪交雫
「サシ」「霜降り」と呼ばれる筋肉内脂肪

遺伝子を確実に受け継がせる

効率的に優良遺伝子を受け継がせるため、種雄牛の精液を取り出し(採精)、希釈したものストローに詰め、雌牛の子宮に注入する人工授精が主流だ。

採精

人工授精

希釈し、ストローに詰めた後、液体窒素で保管される。1回分で200~300本作る事ができる。

「おいしいか～？ そうか、そうか」と話しかけながらミルクをやる研究員。子牛は産まれてすぐに母親から離して人工哺育される。

おいしさを数値で表す

「うまい！」の感覚には個人差があり、明確な表現が難しい。そこで2011年に開発した「鳥取和牛オレイン55」では、口溶けや風味が良くなる「オレイン酸」の含有量をアピールした。この数値化が客観的な判断材料となり、ブランド化への火がついた。また牛乳でも、ブランド化や育種改良に向けて、おいしさを感じる成分や食べさせるエサによる味の違いなどを、今後、数値化する計画だ。

文・イラスト / 雲坂紘巳 (くもさか・ひろみ)
納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。づるづるした食べ物が好きなことから、屋号は「スタジオづるり」。
WEB = <http://dururi.com>

香りが高く口溶けのよい牛肉や、濃厚でコクがある牛乳。畜産農家が安定・効率的に出荷するため、牛の生産技術や飼料を研究する「畜産試験場」。全国の和牛の始祖牛「氣高号」の产地でもある鳥取県で、受け継がれてきた優良牛の産出技術や「おいしさ」の数値化を研究している。

「おいしいか～？ そうか、そうか」と話しかけながらミルクをやる研究員。子牛は産まれてすぐに母親から離して人工哺育される。

16

「患者の声をしっかり聞く」



ゆかわ・きみ

1936年三朝町生まれ。鳥取大学医学部卒業。1962年鳥取大学医学部附属病院第一内科に入局。翌年、倉吉市内の診療所の院長に。1967年鳥取県立厚生病院に勤務。1993年同病院総合健診センター(当時)部長に就任。1999年湯川医院を開業、現在に至る。座右の銘は「病気を見る医者より病人を診る医者になれ」。

※日本医師会 赤ひげ大賞=地域の医療現場で長年、住民の健康や生活を支えている医師を顕彰する目的で2012年に創設された。日本医師会と産経新聞社が主催

またこの頃、3児の子育て真っ最中でもあった。それでも「実家や近所の方に子どもたちを預かってもらったり、看護師さんが子どもと一緒に遊んで待っていてくれたり。周囲の助けには本当に感謝していますが、苦労とは感じなかつたですよ」と、仕事と育児の両立をさらりと話す。

功績が認められ受賞

そんな目まぐるしい毎日を送りながらも、消化器内科を専門として数多くの症例を診て学び、胃・大腸内視鏡検査の技術を磨いた湯

川さん。中でも胃カメラは、患者から好評で、指名を受けるほどの腕前。キャリアを積み重ね、同じ病院に総合健診センター(当時)が新設される際には部長に抜擢された。

再び開業医になったのは、その6年後。三朝町で開業していた夫が胃がんで亡くなつたのがきっかけだった。いつか夫婦で一緒にやわすように、院長として仕事に没頭したという。

そして気付けば20年。「医者だからといって、お高くとまるタイ

科医である湯川喜美さんは、笑顔でそう答えた。やわらかい口調と優しい雰囲気に、「湯川先生は話しやすい、何でも相談できる」と患者からの信頼も厚い。

日本屈指のラジウム温泉で知られる三朝町、昭和レトロが漂う温泉街の入口に湯川さんが院長を務める「湯川医院」はある。ここで20年以上にわたり、地域のかかりつけ医として住民の健康を支えてきた。自宅でのみとりを望む患者の往診、近隣企業の産業医、老人福祉施設の嘱託医もこなす。三朝温泉にやって来た観光客が、風呂で転んだ、急に体調を崩したと来院することもある。

変わらぬ原点を貫く “赤ひげ先生”

「新米」のまま診療所へ

祖父、父、母の実家も開業医といふ家庭で育った湯川さんにとって、医師は最も身近な仕事だった。「喜美を医者にするんだ」という祖母の口癖も手伝って、自然と医学の道へ。勉学に励み、鳥取大学医学部を卒業。京都第二赤十字病院でのインター(実習生)を経て、鳥取大学医学部附属病院第一内科に入局した。

その1年目、思わぬ転機が訪れる。急逝した叔父に代わり、倉吉市の診療所(母の実家)を引き継ぐことになったのだ。「私が行かなければ無医村になる地域だけに、経験の浅い自分でも住民の皆さんは喜んで迎え入れてくれた。自信はなかったが、とにかく患者

さんの話をよく聞こうと。そこから始まりました」。

世間話を交えながらじっくりと

問診を繰り返し、患者の症状と自分の医学知識とを照らし合わせる。そうして若い男性の難病が判明したこともある。この診療所での経験が医師としての「原点」となった。

多忙極め、ジレンマも

約4年が経過する頃、鳥取県立厚生病院(倉吉市)の内科医にと声がかかる。「医師としてもっと研鑽を積まねば」と思い、迷わず話を受けた。しかし、総合病院の勤務は多忙を極める。1日50人を超える外来患者、正午になつてもデスク上にはカルテがズラリ…。患者の話を詳しく聞くとする

と、横で看護師が急かす。それもそのはず。病棟では、さらに約40人の入院患者が回診を待っているのだ。この現状では、これまでの診察のポリシーを搖るがしかねず、ジレンマを感じた時期だ。



診察室に掲げられている
「第8回日本医師会 赤ひげ大賞」の賞状

問 湯川医院
所 東伯郡三朝町三朝967-1
☎ 0858-43-3399
□ 8時30分～12時30分、15時～18時
休 木・土曜日の午後、日曜日・祝日



湯川医院
診察時間
平 日 午前8:30～12:30
午後3:00～6:00
土曜日 午後 休診
●木・日曜日・祝祭日は休診
急患はいつでも受けます
TEL 43-3399

手塩に掛けた妙味で
食も地域も元気に



■■三拍子そろった養殖ヒラメ ■■

「ひらめのさし」(700円)は、刺身と特製のタレに付け込んだ漬け、の2種類盛り。ポン酢が合う。「ひらめフライ定食」(1100円)は、ごはん・みそ汁・小鉢などが付きボリューム満点。大きな切れをほお張る醸醤味が味わえる。

【食堂 元気海】

所 東伯郡湯梨浜町泊
(泊漁港内)
0858-34-6007
営 11時30分~14時30分
(14時L.O.)
休 木曜日、第2水曜日

文／岩村利恵 写真／佐野明美

透明感のある白身は、シコツとした歯応えとほのかな甘みが特徴で、臭みは全くなし。刺身はもちろん、熱を加えても硬くなりにくいので、煮ても焼いても舌を満足させる。おすすめはフライ。5枚おろしにした内の2枚(半身)を贅沢に使い、からりと揚げる。肉厚なのにふっくら柔らか、口中でほろりとほぐれる。香ばしい衣と程よい塩気で、食が進む。

「うまい・新鮮・安価」の三拍子にリピーターも多い。「養殖も食堂も一手だから、この価格で提供できる」と戸羽さん。小さな港での大きな挑戦。食べる人も地域も元気にする、妙味を見つけた。

※井戸海水=地下に浸透している海水を井戸で汲み上げた水

逆境に耐え続ける力の根源

水木さんは子どもの頃から、自他ともに認める「ズイボ(食いしん坊)」だった。長じても、おやつにまんじゅうを何個食べたとか、昼食に生牡蠣を何人前平らげたとか…食に関する話題は日々、尽きなかった。

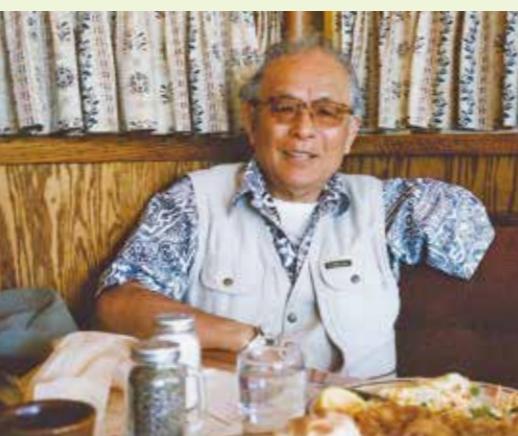
ところが、私も同行した1993年のアメリカ旅行で異変が。インディアン居留地に入ったとたん、食の話題がいっさい消えたのだ。

多くの家で提供されるのが、羊肉とトウモロコシ入りのスープ。どちらもかなり固く、総入れ歯の水木さんは、どうやら噛みづらい様子で手を付けない。だが、固さで難儀していることは決して言わず、パンなど柔らかいものだけ口に運ぶ。まるで自分がその場にいないかのごとく、終始無言でやり過ごすのだ。私は最初、独自の体調管理法かと思ったが、次第にそうではないと気づいた。

水木さんは、43歳で脚光を浴びるまで、長い下積み生活を送る。小学校卒業後、進学や就職は失敗続き。戦争では一兵卒(※)として死線をさまよい、戦後も貧困に苦しんだ。

日本の学歴社会では、水木さんのようなケタ外れの才能が開花するのは至難の業。得意でない場所では空氣と化してやり過ごし、泣き言は言わず、ひたすら自分を信じて「時節到来」を待つ。これが水木流の根源か。異国で「ズイボ」を『封印』した水木さんを見て納得した。

※一兵卒=特別な立場なく、上官の命をうけて黙々と従うしかない兵士。



フラッグスタッフ(アリゾナ州)のレストランで食事中の水木さん(1993年6月)

*「花咲くYokai談」は、次回(6月1日)から
新しく公開するWEB版に移行します。



文・写真／足立 優行
イラスト／ミギワン

妖怪
ファイル
No.12



妖怪は大別すると、目に訴えるものと耳に訴えるものに分かれるが、「音の怪現象」の代表格が「小豆洗い」。地方によって「小豆磨き」「小豆婆」または「米磨ぎ婆」とも呼ばれる。

日本各地に出没し、場所はたいてい川のほとりか橋の下。
ショキシヨキ、と小豆をとぐような音が聞こえてくる。時には、歌と一緒に聞こえる。「小豆とこうか、人取って食おうか。ショキシヨキ」。面白がって不用意に近づくと、いきなり水中に引き込まれることがあるから要注意だ。

なぜ「小豆」なのかは、水木さんの著書によると「神祭り用の特別な食品だったから」らしい。

柳田國男の『妖怪談義』(講談社学術文庫)ではムジナの仕業か、あるいはイチチなど水辺にすむ動物が、繁殖期などにせわしく砂をかき動かす音ではないかと推察している。

※参考文献: 水木しげる『図説日本妖怪大全』(講談社+α文庫)

足立倫行(あだち・のりゆき)
ノンフィクション作家。境港市生まれ。同郷の先輩である水木しげるさんに約2年間密着取材し、『妖怪と歩くドキュメント水木しげる』(1994年新潮文庫※)を刊行。主書に『日本海のイカ』『北里大学病院24時』『血脉の日本古代史』など。
※今井書店より復刻版発売中

ミギワン
漫画家・イラストレーター。石川県生まれ、鳥取県育ち。
WEB=<http://migiwan.com/>
facebook=<https://www.facebook.com/migiwanFB/>



活気生み出した “鬼嫁”コミュニティー

歴史ある「三八市」守り継ぐ



かつて湯梨浜町松崎地区では秋に農具市が開かれ、
大変なにぎわいを見せていた。
時代の流れで市は縮小し、このまま廃れてしまう…と
誰もが諦めかけていたその時、「鬼嫁」たちが立ち上がった。
そして、女性目線の改革を断行した「三八市」(※)を見事、復活させる。
まちに再び活気を呼び込んだ、鬼嫁たちの活躍ぶりを追った。

※三八市=10月の3と8がつく日に開催されることが名前の由来

文／井田 裕子 写真／田中 良子



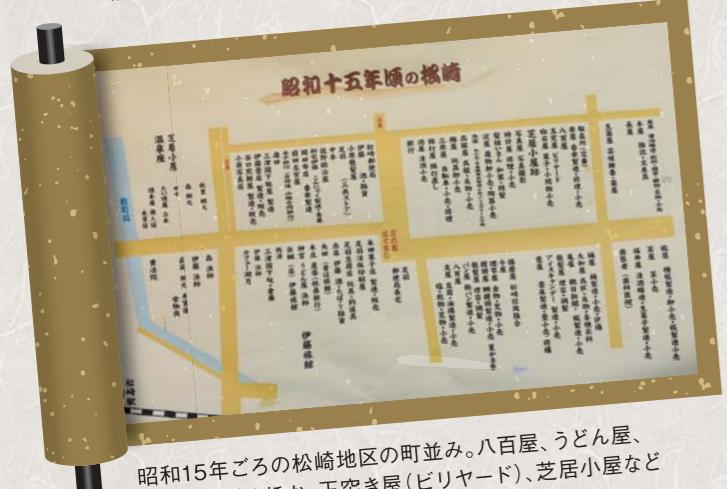
大盛りあがりの鬼嫁コンテスト
(2015年10月)★

★=写真提供:三八市実行委員会



交通の要所であった松崎地区はかつて商業の町として栄えていた。農業が盛んだった戦前から、稻刈りの準備を始める旧暦の8~9月にかけて、鋤や鎌、稻を干す竿、手編みの竹籠などを販売する農具市が立つようになる。人が集まるにつれて衣類や飲食などを提供する店も増え、往時は、すんなり道を通り抜けられないほどの大層な人出だったという。

農具市は戦争で中断したものの、戦後に地元商工会が中心となって復興し、多くの露店が並ぶお祭りのような「三八市」へと発展した。商店も市に合わせてセルを開催。鳥取県中部の中心地で、「何でも手に入る」場所として、周辺の町から多くの買い物客が訪れた。



昭和15年ごろの松崎地区の町並み。八百屋、うどん屋、散髪屋などのほか、玉突き屋(ビリヤード)、芝居小屋など多種多様な業種の店がズラリ



新生「三八市」では、軽食やスイーツなど飲食の販売が多く増えた(写真上)★

近隣で作っている農産物の販売も。安価で新鮮な野菜が豊富(写真左)

起源は人の波であふれた農具市



「本当にぎやかでお祭りのようだった」と当時を振り返る伊藤さん

「何でも手に入る」場所

地元の商店街で生まれ育った伊藤嘉行さんは、当時の町の様子を「普段から人通りが多くて、近所には豆腐屋が3軒あったし、芸者置屋も5軒くらいあって昔過ぎには三味線の稽古の音色が響いていた。市の時にぎわいは、さらに相当なものだった」と懐かしむ。

しかし、農業の衰退や周辺地域への商業施設進出が進み、徐々にその役目を終えていく。その後、鬼嫁たちの活躍により、市は時代に合った姿に変わって、再びにぎわいを取り戻した。現在も一角には昔から通う業者が、鎌や包丁などの刃物商品を広げており、農具市として栄えた「三八市」の歴史を今に伝えている。



昭和30年ごろの市。遠方から多くの人が訪れた
写真提供：立木榮

かつてのにぎわいをもう一度

JR松崎駅前の細い路地を少し進むと50~70軒の商店街に、朝どれの新鮮野菜や、布小物、菓子などを扱う、地元の店や露店、約30店が軒を連ねる。老若男女が行き交い、じっくりとお気に入りのものを探したり、軒先に座ってお茶を飲んだり。松崎名物「三八市」は、品物だけなく、人々が笑顔もやり取りする朝市だ。



当から名残りで今も続く農具・刃物商品の販売★

「三八市」は戦前、戦後に農具市として栄えていたが、時代の移り変わりと共に訪れる人も徐々に減少。「歴史ある市をなくしてはならない」と奮い立たたのが、この地域の玩具屋で育ち、2軒隣の商店に嫁いだ野口智恵子さんと、野口さんに共感した商店街仲間の伊藤鈴江さん、三津国美枝子さん、立木てる子さんの4人。それまでは刃物や鋤など農具の

販売が多かつたが、手作りアクセサリー販売や飲食品の提供、子どもが楽しめるイベントなど、女性目線をふんだんに盛り込んだ改革を提案。地道に商店街を歩いて賛同を求め、2010年に「新生「三八市」」の開催にこぎ着けた。地元の商店の特別セールや空き店舗を利用したフリーマーケット、茶席、抽選会など、手作り感満載の市は好評で、通りは久しぶりのにぎわいをみせた。



「今年の市が終わると、まもなく来年の企画を練ります」と
パワフルに語る三八市実行委員会のメンバー
(左から三津国さん、立木さん、野口さん)

逆手に取って 『鬼嫁、誕生！』

4人が『鬼嫁』と『化した』のは、活動から5年後。常日頃、「何事も遠慮なくはつきり言い合う。ただし、あと腐れはなし」との方針で、意見交換を行つてある日のこと。メンバーのひとりが約束を破つた男性を、ピシャリと注意したところ、男性は「こわ、鬼嫁だなあ！」と、肩をすぼめた。それを聞いた4人は、怒るどころか「コレ、使える！」と逆手に取り、2015年の三八市に『鬼嫁』軍団として参上したのだ。

『鬼嫁』の活動は「三八市」にとどまらず、近くの保育園や福祉施設を慰問したり、ウォーキング大会で参加者をもてなしたり、この地域に伝わる羽衣天女伝説の紙芝居を手作りして披露したりと幅広い。これらが話題を呼び、「三八市」はさらに注目を浴びるようになった。

活動をつづった「鬼嫁日記」など、文章の才能を発揮していたメンバーや伊藤さんは、たくさんの人には惜しまれながら2016年に逝去された。生前、闘病中にも体調の良い時は車椅子で出かけて、鬼嫁に扮していたという。「三八市」の運営を手伝つてきた夫の嘉行さんは「みんなと一緒にいるといつも笑つていて、お陰で幸せに逝きました」とほほ笑む。



パワー全開の『鬼嫁』のみなさん。
故・伊藤鈴江さんに替わって、夫の嘉行さんが仮装に参加(右から2番目)



問 三八市実行委員会・鬼嫁の里プロジェクト
☎ 090-7779-6175(野口さん)



鬼嫁仮装の服は手製でオリジナルデザイン。雰囲気を盛り上げる



この日のために作った「鬼よめせんべい」。
コロナ禍とあって個性的なマスクをしている来場者に配った

市の活気が地域の活力へ

「三八市」の復活は、普段の人々の交流にも影響を与えた。「市以外の日も集まりたい」と、商店街の空き店舗をカフェに改装し、地域の人たちが集まる空間を創出。「三八市」をきっかけに松崎地区に興味を持ち、移住する若者も現れるように。市の活気が、地域の活力へとつながっている。

これまで10月に5～6回開いていた「三八市」だが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で、2日間のみに縮小して開催。「心配したが、出店の方々が快く協力してくださいって、ありがたかった」と野口さん。三津国さんは「お店を出された方も、来てくれた方も、両方に止まりそうにない。

「鬼嫁でも嫌われないコツは？」。無駄な質問に、三津国さんが優しく答えてくれた。「本当の鬼は『鬼嫁』にはなれません」。伊藤さんの手記にも「鬼嫁の精神とその中の天女の心」とあり、ここにいて得られる安心感と心地よさの正体を知った。ああ、懐深く奥深い鬼嫁の魅力よ。彼女たちの快進撃は、まだまだ止まりそうにない。



鬼嫁コンテストには、子どもたちも出場。
愛らしさで会場を盛り上げた(2018年10月)★





茶髪で耳にはピアス。ヨーヨー作りで世界一を究め、50歳を前に趣味のバイクのサイドカーレースで5年ほど各地を転戦…。紺本忍夫さん（58）は、いささか型破りな「現代の名工」だ。「名工なんて違和感ありありですが、ものづくりは本当に楽しい。それでみんなに喜んでもらえれば、なお楽しい」。

旋盤工 紺本 忍夫

中学生時代、新聞広告でドイツ製のミニ旋盤（※1）を見て「かっこいい」と思った。車が好きでいったん自動車整備工になるが、「何か違う」と刀鍛冶の流れをくむ金属加工会社の門をたたき、鍛造（※2）に使う金型を削り出す旋盤工の道へ。

ある日、会社から新素材の金属加工を研究するため、競技用のヨーヨー作りを命じられる。これが職人魂に火をつけた。「たまたま知り合った世界チャンピオン（競技部門）の助言もあって、のめり込んだ」。結果、ヨーヨー世界大会の改造部門で通算4度の優勝に輝く快挙。その後、没頭したサイドカーレースでも、車両改良に職人技が生きた。

「僕は特別な技術を持っているわけじゃない。大切なのは発想力や挑戦する心」。境港総合技術高等学校で社会人講師も務める。「生徒からの質問は大人の常識を揺さぶる。僕の方が刺激をもらっています」。これから何を作ろうか。『転がる石』のように名工は次のチャレンジを探し続ける。

※1 旋盤＝金属を加工する工作機械

※2 鍛造＝力を加えて鍛えながら金属を製造すること。対して
铸造は、熱して溶けた金属を金型に流して製造する方法

文／萩原 俊郎 写真／田中 良子

高い技術と豊かな発想力で新風



重心など緻密に計算した設計により、回転の速度が違うコマの数々

MEMO

旋盤工とは金属を加工する職人で、かつて日本の経済成長を陰で支えた存在だった。紺本さんは、卓越した切削技術と独創的な発想力で、マグネシウムから色紙まで意表を突く素材でヨーヨーパフォーマーのヨーヨーなどを製作。旋盤の世界に新風を吹き込んだ。2019年11月、厚生労働省の「現代の名工」に認定。

分解して収納できるケース
付きのヨーヨー。組み立てる
ことが好きな人にお勧め



株式会社菊水フォージング

〒683-0023
米子市夜見町2923

TEL 0859-29-0721

「馬耕の実践が今の暮らしを見つめ直すきっかけになれば」と岩田さん



地域おこし協力隊(智頭町)

岩田 和明さん

東京都出身

- ◎家族構成／妻、子4人、馬2頭
- ◎移住前の住まい／山梨県
- ◎移住時期／2018年6月
- ◎現在の仕事／地域おこし協力隊(自然栽培普及)、農業

森のうまごや
八頭郡智頭町中田(旧営林署跡地)
090-5573-7927
<http://www.instagram.com/mori.no.umagoya/>



手作りのアスレチックに
大はしゃぎする子どもたち★

※3日本在来馬＝農耕用や荷物の運搬用に使われながら、
飼養されてきた日本固有の馬の品種。需要が減り、
現在は全国に8馬種のみ

に興味を持つてほしい。

このほか、周囲の森の中にアスレチックを手作り。野外遊び体験「森のうまごや プレーパーク」を月1回開き、県内外から集まつた家族連れの笑い声が響く。「人が集まる場所や仕事をつくれば、地域の景観とともに馬を守ることになる」。地域おこし協力隊の任期(2021年6月)終了後も、ここで馬耕を続ける。農作物の収穫量を上げ、市場に出荷していく予定だ。

量の間伐材も運ぶ。「日本在来馬は絶滅の危機にある。だから馬の居場所や仕事をつくれば、地域の景観とともに馬を守ることになる」。地域おこし協力隊の任期(2021年6月)終了後も、ここで馬耕を続ける。農作物の収穫量を上げ、市場に出荷していく予定だ。

このほか、周囲の森の中にアスレチックを手作り。野外遊び体験「森のうまごや プレーパーク」を月1回開き、県内外から集まつた家族連れの笑い声が響く。「人が集まる場所を整えてみんなに楽しんでもらえれば。ここから『持続可能な暮らし』に興味を持つてほしい」。

★=写真提供: 岩田和明

馬とともに生き、持続可能な暮らしを目指す

From
Yamanashi

家族6人、馬2頭と一緒に移住、
化石燃料に頼らず、日本古来の耕作法「馬耕」を
実践する岩田和明さん。
馬とともに切り開く山間の土地は
日本の原風景そのもの。
その暮らしは、新たな人の輪も育んでいる。



輝くIJUターン者たち

文/倉恒 弘美 写真/山田 真実



足場の悪い山に入り、間伐材を運ぶ福之助

決め手はサドベリー教育

「馬は雑草や作物を食べて田畠を耕す力を得て、馬糞はたい肥となつて森にめぐり、その落ち葉が田畠に返つて作物が育つ。循環型の農業です」。地域おこし協力隊として2018年、智頭町に移住した岩田さんは、町内の里山で「馬耕」による自然栽培(※1)を行う。馬耕とは、馬の力を借りて荒れた土地を開き、田畠を耕す昔ながらの耕作方法だ。50年ほど前まで日本全国で行われていたが、トラクターや耕運機など農業機械が台頭し、今では知る人も少ない。

生き生きしてきた。来て良かった」と話す。



田んぼの代掻きや木材の皮剥ぎを手伝う子どもの表情は生き生き★

※1 自然栽培＝無農薬・無肥料を基本とする栽培方法

※2 サドベリー教育(スクール)＝従来の学校とは異なり、授業ではなく、教師も不在で子どもの主体性を重んじる教育

地域の景観を守りたい

耕作地は4ha。耕太郎(9歳)と福之助(4歳)の2頭が荒れ地に生い茂る草を食べ地面をならす。食糧は、雑草のほか、竹、干した藁、おからなど。不耕起栽培といって、耕さずに栽培することも始めている。農薬や肥料を使わず麦や大豆などを育て、麓の田んぼでは苗を一本ずつ手植えする。「地域の人、子どもたちが自然と集まって農作業を手伝ってくれる」とほほ笑む。

2頭はともに日本在来馬(※3)の「北海道和種」。小柄だが体は頑丈で、荷物の運搬や農耕に適し、相当な重

IJUターンの相談窓口

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構
所 鳥取市扇町115-1
鳥取駅前第一生命ビル1階
0857-24-4740
<https://furusato.tori-info.co.jp/>

IJUターン就職に関する相談
0120-307-238
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)

移住に関する相談
0120-841-558
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
とどり移住定住ポータルサイト
<https://furusato.tori-info.co.jp/iju/>

東京都出身の岩田さんは以前、関

ともと関心があった環境教育への思

いが高まり退職。2014年、山梨

県に移住後NPO法人に入り、馬耕

による米栽培に約4年取り組んだ。

同法人の解散によって、新たな移住先を探していた時、智頭町内で行わ

れているサドベリー教育(※2)を知

る。「子どもが自分でやりたいこと

を見つけられるかも」と可能性を感じ、移住を決意。「子どもの表情が

生き生きしてきた。来て良かった」と話す。





まえた・かんな
鳥取市出身。古本屋「邯鄲堂」
店主。古本の販売のほか、陶
磁器の修理(金継ぎ)も行う。

【邯鄲堂】
■ 鳥取市吉方町2-311
■ 080-2940-2127

文・イラスト／前田 環奈
文・イラスト／前田 環奈

『自分、のままで生きて死ぬ自由』

『独居老人スタイル』 都築響一著 (筑摩書房)

ひとりはみじめなもの。老
人はかわいそうなもの。協調
を最大の美德とする社会が作
り上げた、最も憐れむべき存
在ー「独居老人」。本書は、
この呪詛のような「偏見」を
尻目に、老いて子に従わない
生き方を選んだ16人の強烈な
実態を取材した1冊だ。

豊かな老後」とは何だろう。
孫と縁側で日なたぼっこする
ことか。老いらしく恋に溺れ
ることか。笑り続けてクソジ
ジイと憎まれることが。きっ
と正解はない。けれど、取捨



*「文字の迷宮をゆく」は、次回(6月1日)から新しく公開するWEB版に移行します。



■ 128号の感想から ■

またかんな
鳥取市出身。古本屋「邯鄲堂」
店主。古本の販売のほか、陶
磁器の修理(金継ぎ)も行う。

(京都府向日市 阿部 奈南)

鳥獸ハンターの記事を興味深く
読みました。女性ハンターの活躍
が頼もしい。信州では鹿肉で作つ
たかつお節ならぬ「しか節」があ
ると聞いたことがあります。駆除
された動物がいろいろな形で活用
されるなどよいですね。

(鳥取県米子市 井田 純子)

「きらり匠人」は、ふるさとのも
のづくりへの希望に満ちた記事だ
と感じました。長い年月、磨き抜
かれた技術が、職人の伝統を
守る心と情熱によって次世代にも
引き継がれるよう願います。

(鳥取県鳥取市 森 美智代)

表紙絵がなんともすてきですね。
また巻頭特集の「学び舎に輝き、
ふたたび」で、いろいろな工夫によ
つて、旧校舎が地域に根ざした
活動の場になつていることがよく
わかりました。また「おもしろ発見」
の無花粉スギの研究がすごい!思
わず、お礼を言いたくなりました。

(三重県志摩市 中北 京子)

廃校を使ったコミュニティー複
合施設の隼しab.は良い使い方で
すね。コワーキングスペースは今
の時代の働き方にぴったりだと思
いました。

(鳥取県倉吉市 田中 英里)

「ここにこの人」の廣池さんの写
真の素晴らしい動き。特に掲載
されていた「Departure」
の美しさに魅了されました。
「カメラアイ」の「北海道のよ
な丘の風」の写真、嫌なことも忘
れてくれるほど癒やされました。

(静岡県富士市 小島 真利)

組子細工の屏風や照明器具は、織
細ですべきですね。木の香りにも癒
やされそうです。技術の継承がいっ
までも続くことを切に願います。

(鳥取県岩美町 岩村 恵子)

「きらり匠人」は、ふるさとのも
のづくりへの希望に満ちた記事だ
と感じました。長い年月、磨き抜
かれた技術が、職人の伝統を
守る心と情熱によって次世代にも
引き継がれるよう願います。

(鳥取県米子市 井田 純子)

種類も味も多様なエディブルフラワー



見るだけでなく、味わって
楽しめる「エディブルフラワー」。

料理に添えれば格段に

華やかさがアップし、近年、注目の素材だ。

鳥取の新しい名産を目指し、

栽培や普及に力を注ぐのが株式会社エフ鳥取。

代表の中山修さんは、人並みはずれた行動力と
豊かな発想力で邁進する。

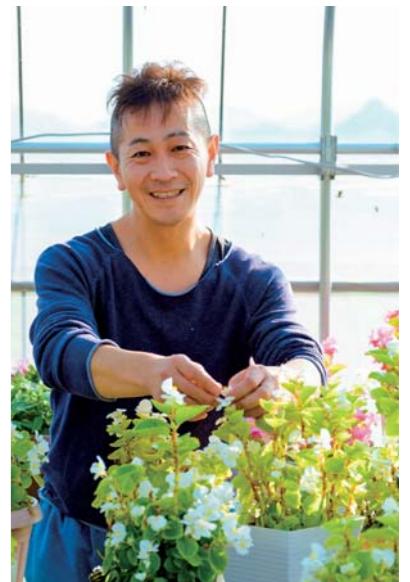
鳥取ブランドの食用花を広めたい

中山さんは20年以上前から、鳥
取市内でフラワーショップを営ん
でいた。4年前、ふと見たテレビ
番組で食べられる花の魅力を知る
と「次はこれだ!」と直感。2カ
月後には東京で講習会に参加し、
店舗の裏でエディブルフラワーを
育て始めた。そして観光施設「と
つとり花回廊」(南部町)やレス
トランなど取り引きをスター
ト。評判がよく増産しようと20
19年10月に株式会社エフ鳥取を
設立、12月には市内にビニールハ
ウスも建てた。「思い立つたら即
行動、いつも走りながら考えるん
です」(中山さん)。

パンジー、ビオラ、コスモスなど
13種類の約3000株を栽培す
る。色鮮やかな花は、見るだけで
気分が上がるが、味も多様で甘さ
や苦みが料理に奥行きを醸し、特

別な一皿にする。
口にするには「安心が第一」と、
土壤などの検査を定期的に受け、
農薬や化学肥料は使わない。ハエ
取り紙や木酢液などで害虫を退
治。とはいえ、気温や天候に左右
され、苦労は絶えない。それでも
「ずっと実験を続いているようで
楽しい」と、毎朝5時半にハウス
に来て、育ち具合をチェックする。
花の質の高さに、腕のあるシェ
フから問い合わせが多く、現在は
県内外のレストランなど約60店舗
に販売。生で出荷するほか乾燥や
加工も手掛け、用途が広がった。

2020年春には、新型コロナ
ウイルス感染症拡大の影響で、出
荷がすべて停止したこと。それ
でも花は咲く。捨てるよりはと、
酢飯の上に花を敷き詰めた弁当を
考案、破格の値段で販売。商品の
インターネット販売も始め、悔し
さをバネに苦境を乗り切った。
2020年春には、新型コロナ
ウイルス感染症拡大の影響で、出
荷がすべて停止したこと。それ
でも花は咲く。捨てるよりはと、
酢飯の上に花を敷き詰めた弁当を
考案、破格の値段で販売。商品の
インナー



「植物は生き物。試行錯誤ですが、それだけに成長したときのうれしさは大きい」と中山さん



用途が広がる乾燥・加工の商品

株式会社 エフ鳥取

代表 / 中山 修
設立 / 2019年10月
所 / 鳥取市馬場116-1
□ 0857-54-1870
□ <https://www.facebook.com/eftottori/>
NS <https://home.tsuku2.jp/storeDetail.php?scd=0000111343>

読者プレゼント

応募〆切
2021.
3/31
消印有効

■応募方法

下記の項目を記入し、ハガキまたは電子メールでご応募ください。
 ① 希望の商品記号または商品名
 ② 掲載記事への意見・感想
 ③ 応募用クイズの答え
 ④ 住所・氏名・年齢・電話番号
 ※②の感想が次号の「VOICE」に掲載される場合、住所・氏名が明記されるところをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

■応募先
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とつとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス : now@kouhouren.jp

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはございません。

●応募用クイズ●

Q 久松山の東に位置する本陣山に
豊臣秀吉がおいた本陣の名前は?
4文字を記入してください。

128号のクイズの
答えは「ハイブリット」

C



[5名]

みつかくくんリングノート(A6サイズ)

県立博物館で人気のオリジナルノート。鳥取藩・初代藩主の池田光仲が「麒麟獅子」に乗るコミカルなイラストが各ページに入り、書き込むのが楽しくなる。

問 鳥取県立博物館
☎ 0857-26-8042

F



[3名]

鳥取城跡・太閤ヶ平オリジナルグッズ

鳥取城跡・太閤ヶ平グッズのセット。登城の証となる「御城印」を模したクリアファイルなどのほか、鳥取藩主・池田家の家紋入りの一筆箋も。

問 鳥取市歴史博物館 やまびこ館
☎ 0857-23-2140

A



【3名】
フラワーソルト(100g)

食用の花とヒマラヤ岩塩を混ぜた色鮮やかな調味料。ひと振りで料理の味を引き締め、見た目に彩りを添える。サラダやカルパッチョなどにオススメ。

問 株式会社エフ鳥取
☎ 0857-54-1870 ※種類は選べません

B



[3名]

伯州綿「白」綿木染ミニハンカチ (25cm×25cm)

境港市で有機栽培した「伯州綿」を使用したハンカチ。伯州綿の枝葉で染めた、100%オーガニックコットンで、吸収性に優れ、使うほどに肌に馴染む。

問 株式会社きさらぎ
☎ 0859-44-4787 ※色は選べません

D



[3名]

米子城跡手ぬぐい(30cm×90cm)

国指定史跡「米子城跡」をあしらった手ぬぐい。建物の復元イメージ図と、現在の城跡を上から見た絵柄が染め抜きされている。肌触りよく柔らかな風合い。

問 米子市観光協会
☎ 0859-37-2311

E



[3名]

米子城跡オリジナルトートバッグ (37cm×24cm)

ライトアップした米子城跡のイメージロゴ入りトートバッグ。ロゴは蓄光加工され暗くなると光る。丈夫なキャンバス地で、使いやすいサイズだ。

問 米子市観光協会
☎ 0859-37-2311

G



もっちり自然薯プリン(3個入り) [3名]

日南町産の自然薯で作ったプリン。甘さ控えめで、自然薯特有の粘りを生かしたもっちりとした食感と、なめらかな舌触りが特徴。卵不使用。

問 自然薯屋おおえ
☎ 0859-82-0859

H



野花梅の飲むゼリー(185g×3) [3名]

湯梨浜町特産の大玉の梅「野花梅」を使ったゼリー。完熟をシロップ漬けにし、芳醇なエキスとコラーゲンが贅沢に入っている。温めても美味しい。

問 株式会社プレマスベース
☎ 0858-24-4722

Editor's note

□ ■編集後記 ■□

たいてい「多数派」に属せない。無意識の斜め目線なのか、分析癖なのか、要因は謎だが。しかし、NOWは一般情報誌、多くの支持を得る企画も必要。当然、自身が関心が薄い分野もある。▼今回の巻頭特集がそれ。城好きは多い。戦国武将好き

も然り。だけど、どんなイケメン武将だって敵陣の命を奪う世だ。城周辺なんて、怨念の靈がウヨウヨでは?そもそも歴史浪漫、って何を指すの?と、疑問だらけだった。▼ところが、取材で開眼! まずは、城を造った職人たちにズキュン。石の割り方、積み方…複雑すぎる…。道具だって少ない時代、まさに知恵と技の結晶だと感動。さらに、武将たちはドローンも

• ないのに地形を俯瞰でとらえ、緻密な計算で戦法を練る。そのIQの高さに驚愕。授業では教わらなかつた視点での話にときめいた。▼そう、先入観の壁を破ってみれば、新しい景色が広がるのかも。じゃあ、学生時代の超苦手科目「物理」にでも再挑戦してみるか。いや…無理。史上最低点数を獲得したたかん。黒歴史、のトラウマが蘇り發熱しそう(苦笑)。【Hi】

鳥取県総合情報誌 vol.129

とつとり
Spring 2021
NOW

企画・編集・発行 鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

制作 株式会社セシイ堂デザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

0857-26-7086

0857-29-6621

とつとりNOW

検索

<https://www.kouhouren.jp/>
2021年3月1日発行 定価315円